

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	シルクおかやの歴史・文化を活かした官学民協働の賑わい創出・人材育成事業
事業主体 (連絡先)	市立岡谷蚕糸博物館 岡谷市郷田1-4-8
事業区分	(6)オ その他地域の特色及び個性を活かした産業振興並びに雇用拡大に資する事業 (3) 教育及び文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	294,467円 (うち支援金: 225,000円)

事業内容

製糸業の技術者を養成する目的で明治45年に設立された平野養蚕学校を前進にもつ長野県岡谷工業高等学校が、創立110周年を迎えるにあたり、岡谷市(蚕糸博物館)と(一財)岡谷工業高等学校同窓会及び長野県岡谷工業高校が共同で企画展ほかを実施し、製糸業が全盛であった諏訪蚕糸学校時代、同校の活躍に熱狂した地域の人々の様子が見える資料や、製糸家の支援により全国規模の遠征を行い、台湾にまで遠征する中で甲子園準優勝を果たした諏訪蚕糸野球部の歴史を表す関連資料を展示し、当時の岡谷諏訪地域の活気あふれる社会経済状況を伝えるとともに、近年、発見された当時の野球部部長の御子柴三郎氏が残した2,000点余の資料を初めて一般公開した。これらの資料は、スポーツ史、教育史、経済史など様々な観点から地域の歴史を明らかにした貴重なもので、これらの資料の展示に加え、前長野県立歴史館資料課長の西山克己氏による講演会を開催し、資料を元にした解説を加えることで、一地方都市からでも、そこに暮らす人々の知恵と努力と連帯により、賑わいや豊かさを創出できることを表した。子どもたちをはじめ、今現在、地域に暮らす、多くの市民に希望を与える内容となった。この他に、親子向けに岡工生によるロボット製作体験を開催し、ものづくりの楽しさを、未来の担い手である子どもたちに感じてもらうことができた。



【目標・ねらい】

一農村から近代的な工業都市へと変貌を遂げた当時の活気あふれる岡谷市の歴史を紹介することで、地方からでも歴史を変えるような一大イノベーションを起こすことができるといったメッセージを発信、子どもたちの郷土に対する誇りや、ものづくりのまちである岡谷市の、未来に向けた希望の醸成を図る。

※自己評価【B】

【理由】本事業を通じ、岡谷市のシルクに対する強い思いを多くの市民に理解していただいた。現在進めている岡谷シルクによる地域ブランド発信にあたっての、協力や連携についても期待が持てる内容となった。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

先人の知恵や努力、連帯により、一地方都市でありながら世界一の生糸生産量を誇り、他に類を見ない発展をとげ、甲子園でも準優勝するほどの強さを発揮したかつての活気ある岡谷市の史実を表すことにより、地方からでも豊かさや賑わいを創出できるという未来に向けたメッセージを発信することができた。子どもたちも、ものづくりの楽しさを5感で感じる事ができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

かつて岡谷市は、輸出用生糸世界一の生産量を誇り、獲得した外貨は日本の近代化に大いに役立てられた。日本の国力強化への貢献度において、世界遺産、富岡製糸場にも劣らぬ歴史を有しながら、認知度が(富岡に比べて)低いのは、史実はあってもそれを如実に表す具体的なモノ(建造物、特産物等)に乏しいことが背景にあり、今後、シルクをテーマに、現代人の生活スタイルにマッチした付加価値の高いシルク製品(モノ)を開発し、岡谷の特異な歴史(コト)と紐づけた特産物として全国に発信。観光やものづくり産業の振興、新しいシルク文化の創出など、現在進めている岡谷シルク推進事業の取り組みに繋げていく。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある